

EVA AIR

FLY TO JAPAN
10 destinations

Sapporo | Aomori | Sendai | Tokyo | Okinawa
Komatsu | Fukuoka | Matsuyama | Kobe | Osaka

BOOK NOW

www.evaair.com

Yukata look OK! **チャオ! 秋の日伊交歓祭**

ワクワクするフリーマーケット
MERCATINO DELL'USATO
ITALO-GIAPPONESE

9月20日 | 20 settembre
10:00~18:00

FACTORY NOLO
Viale Monza, 4 Milano

FREE ENTRY

ゆかたでのご来場大歓迎!

T **ma** **gami** **Eugenio Bergami** **FRANCO CALCAGNI ART**

和食・麺処
SAGAMI
Il numero 1 dei ristoranti di NOODLES GIAPPONESE

ご来店お待ちしております!
Vi aspettiamo a

- Milano
- Modena
- Parma Centro
- Parma Campus
- B. Lombardo
- Verona
- Bologna
- Palermo **MORE** **MORE!!**

www.sagami.it

隔月刊日本語新聞
2026年9-10月号

No. 63

隔月刊日本語新聞 - PUBBLICAZIONE PERIODICA GRATUITA distribuita in Italia
ANNO 10 - NUMERO 5 - SETTEMBRE/OTTOBRE 2026 | Edito da: Geiennette Editore S.a.s.
Testata giornalistica iscritta al Tribunale di Milano n° 53 del 23/01/2017

脱・夏休み
La pacchia è finita

Curiosare il Giappone
Articoli in italiano da pag. 6

わくわくするイタリア新聞

Geiennette Editore
弊社では以下の業務を行っています。

- ★チャオジャーナルの出版
- ★イタリア人への 語指導
- ★日本人への 語指導
- ★ の 通訳・翻訳

La nostra azienda offre:

- ★ pubblicazione di Ciao! Journal
- ★ corsi di per italiani
- ★ corsi di per giapponesi
- ★ traduzione e interpretariato

www.ciaojournal.com ciao@ciaojournal.com

Ciao! Journal 広告掲載料金 Tariffe per pubblicità

広告一回掲載料金
Tariffe Pubblicità per una singola uscita modulo (mm59×59)
€150+IVA (mm59×59)
€90+IVA (mm59×26.5)

1ページ Prima pagina

タイトル上 sopra la testata €380+IVA

2,3,16 ページ Pagina 2,3,16 €200+IVA

上記の料金に広告原稿作成代は含みません。
Non è compresa la tariffa di elaborazione del banner.

チャオジャーナル無料配布先募集

- イタリアの各地域への1回の送料: 25ユーロ
- クーリエサービスにて送付: ご希望部数100部まで
- 本誌p.2の無料配布先に御社名記載

詳細のお問い合わせ
Per maggiori informazioni scrivere a
ciao@ciaojournal.com

CIAO! Journal 無料配布先 (一部) Dove trovare CIAO! Journal

Milano Consolato Generale del Giappone a Milano, JETRO, 日本人学校, Sagami, Poporoya, Shiro, Ristorante Osaka, Yazawa, Gastronomia Yamamoto, Emoraya, Tanabata, Alimentari Gaghe, Hair Salon Otto, Hazama, Università degli Studi di Milano, Info Point Milano, JFC Italia, IperCoop Piazza Lodi店内 WARAI SUSHI, Sagami Milano Corte Lombarda店, Kappou Ninomiya, Kokoro Ristorante Giapponese, Mado!

Roma Ambasciata del Giappone, Istituto Giapponese di Cultura, 日本人学校, Zensushi, Ristorante Mikachan, Ristorante Sushisen, Taki Ristorante Giapponese

Torino Takoyaki Minamoto, IperCoop Parco Dora店内 WARAI SUSHI

Pinerolo IperCoop Pinerolo店内 WARAI SUSHI

Genova Coop Corso Europa店内 WARAI SUSHI

Bologna Sagami

Verona Sagami

Modena Sagami

Parma Sagami

Firenze Centro commerciale Ponte a Greve店内 WARAI SUSHI

Arezzo Coop.Fi Centro Arezzo店内 WARAI SUSHI

Bari IperCoop Bari Japigia店内 WARAI SUSHI

Lecce IperCoop Lecce店内 WARAI SUSHI

Palermo Sagami

Tokyo Istituto Italiano di Cultura Tokyo, サルトリア・イブシロン, クラデスティノ41

Osaka Università di Osaka, Ristorante Il Principe

Kobe 神戸日伊協会

政界アラカルト

ロッジェーロ氏の「正当防衛」

去る7月14日、イタリアの破棄院（日本の最高裁に相当）は、5年前に強盗の被害に遭った宝石店経営者マリオ・ロッジェーロ氏に殺人罪と傷害罪を適用し、懲役14年9カ月および賠償金78万ユーロの最終判決を言いわたした。世間の人々はこの判決に戸惑い、右派連合の面々は即刻異議を唱えた。被害者が有罪になるとは、一体どのような事件だったのか。その詳細を見ていくことにする。

5年前の事件

現在72歳のマリオ・ロッジェーロ氏は、ピエモンテ州クーネオ県にある人口2000人に満たない町、グリンザーネ・カブールで宝石店を営んでいた。2021年4月、イタリア人の3人組の強盗が客を装って店内に侵入。うち2人が、居合わせたロッジェーロ夫人にナイフを向け、娘の両腕を縛って身動きできないようにした。そして、騒ぎを聞きつけて出て来たロッジェーロ氏にピストルを突きつけて6万8000ユーロ相当の貴金属類を強奪した（後にピストルは玩具だったことが判明している）。

強盗2人は、3人目の相棒が待つ車に向かって逃走を図ったものの、後ろから来たロッジェーロ氏に背中と頭を撃たれて即死（拳銃は無許可で所持）。防犯カメラには、同氏が裏口から逃げていく犯人達に至近距離で発砲し、2人を射殺する場面が一部始終写っていた。3人目は足を撃たれたものの一命を取り留め、病院に運ばれて数時間後に逮捕された。ロッジェーロ氏は自ら警察に通報した。

ロッジェーロ氏に味方する政界右派

厳しい判決が下されるや否や、ロッ

ジェーロ氏は不満を訴えるビデオを自身のインスタグラム（フォロワー7万6000人）にて発表した。「娘はピストルを顔に突きつけられて手首を縛られ、妻は喉元にナイフを突きつけられて顔を殴られました。私はピストルを向けられて商品を差し出すまでの間、カウントダウンを聞かされ、生きた心地がしませんでした。拳銃の果てに、自分の店と家族を守ろうとして懲役14年9カ月の罪を着せられた。私にとっては実質、終身刑です。49年間真面目に働いてきた末の結果がこれなのです」と、自らの正当性を訴えた。

メローニ首相は「犯罪を犯した側に賠償金を支払うなどということはあり得ない。ましてや、襲撃から身を守ろうとした被害者が強盗犯人に賠償するなんて。国はあくまでも市民の味方であって、犯罪者の味方ではありません」とコメントした。サルヴィーニ副首相は「誠に不当な判決だ。マッタレラ大統領に訴えて恩赦が下るまで、私は何でもする」と怒りを露わにした。そしてサルヴィーニ氏と同じレーガ党のモリナリ議員は「犠牲者はロッジェーロ氏の方だという明白なメッセージを国は国民に示し、彼をすぐにでも釈放すべきだ」と、恩赦を求める署名運動を開始した。「国の未来」党のリーダーであるヴァンナッチ欧州議員も、「僕らはみんなマリオ・ロッジェーロ」と胸に書いたTシャツを着て連帯を示した。

正当防衛か故意の殺人か

本来は被害者だった彼の方が財産を失い、人生を刑務所で終えることになる一方で、強盗の家族が多額の賠償金をもらうことになる。「これでは処遇が逆だ。おかしい」と思うのが一般の心理だろう。では、ロ

1977年創業老舗寿司店

ミラノっ子に愛されて
おかげさまで半世紀。
「おいしい!」の笑顔を
お届けするために、ポポロ屋は
これからも邁進して参ります。

毎日営業 Aperto tutti i giorni
Lun - Sab : 9:30-14:00/ 17:30-21:30
(※ Pranzo 11:30~ / Cena 18:00~)
Dom : 11:30-14:30/ 18:30-21:30



dal 1977 a Milano

Via Eustachi 20

Milano

02-29406797

DAL 1977

Storico ristorante di sushi

Da mezzo secolo nel cuore dei milanesi.

Da sempre Poporoya vi regala il piacere di dire:
“Che buono!”

Con la stessa passione che ci accompagna dal 1977, continueremo a portarvi in tavola il gusto autentico che amate.

ロッジェーロ氏の行動は正当防衛に該当するののか。

判事はこの事件を前半と後半の2つに分けて分析した。前半は強盗が店主一家を脅して商品を強奪し、逃走するフェーズ。後半は店主が所持していたピストルを手に犯人を追いかけて、射殺するフェーズである。店主は差し迫った危険が去った後に、逃げようとする犯人に発砲して殺害したことから、弁護士の主張する「正当防衛」には該当しない。望まずして殺人を犯す羽目になったのだが、ロッジェーロ氏の行為は「追跡」および「攻撃」とみなされた。即ち、事件の後半においては加害者となり、「故意の殺人」と判断されたのである。

そして、イタリアの民法では加害者は、被害を受けた者またはその扶養家族に、金銭的および非金銭的損害を補償する義務がある。刑事訴訟で故意の殺人が確定した場合、死亡者遺族に対する損害賠償の義務が自動的に発生する。よって、ロッジェーロ氏の「殺人罪」が確定した時点で、強盗の遺族らに対する7万8000ユーロの賠償金が発生したのだ。

同氏とその支援者は事件後半部をあえて無視し、「襲われた方が有罪にされた」と訴えているわけである。

正当防衛とは

専門家による社会問題分析サイト「ValigiaBlu」は、「正当防衛」を以下のように説明している。「イタリアにおける正当防衛は1800年代半ばから法制化され、現在は1930年の刑法第52条（ロッコ法典）を基盤としている。要するに、自分や他人を危険から守る目的で相手に害を与えた者は、その行為が自分の被った脅威に均衡している場合に限り、罰せられない」。

とはいえ、実際にイタリアで正当防衛が

認められるためには、次の3つの要素が同時に存在していることが条件となる。①身の危険が差し迫っており、現在進行形の脅威に晒されている場合。②相手に立ち向かう以外に自分を救う方法がない場合（逃げたりバリケードを築いたりすることが不可能）。③加害者と被害者の標的や手段に釣り合いがある場合。すなわち、「加害者の標的が命であったか金銭であったか」ということや、加害者が目標達成のために使用した手段（今回の件では本物の武器だったか偽物だったか）などが考慮される。金銭などの財産を守るために相手を殺傷した場合は正当防衛に当たらない。

ロッジェーロ事件ではトリノ控訴裁判所が指摘したように、これら3つの要素はいずれも存在しない。

①即時的危険は存在しなかった。強盗行為は完了し、強盗は店を出て車に乗り込み逃走しようとしていた。もしも脅されている最中に店主が発砲していたなら、ここは認められた可能性があるという。②本当に自分と家族の身を守ろうとしていたなら、防弾ガラスの扉と窓が装備された店内に閉じこもり、警察に通報することもできた筈である。わざわざ外に出て追いかけて殺害する必要はなかった。③強盗は宝石を盗んだ（経済的損害）のに対し、店主は2人を殺害し、3人目に怪我を負わせた。人命は金銭よりもはるかに法的価値がある。武器についても釣り合っておらず、強盗はナイフと偽物の銃、ロッジェーロ氏は本物の拳銃であった。

尚、イタリアでは、銃器使用が合法的に認められているのは「国家」に限定されており（つまり警察、カラビニエリ、財政警備隊、陸軍などの法執行機関）、市民が自身の判断で銃器を使用することはできない。この事件がきっかけとなって、自己防衛の目的でアメリカ式に銃器の使用を許可し



Indice 目次

- p.2 政界アラカルト
 - ロッジェーロ氏の「正当防衛」
- p.4 かけあしイタリアのニュース
- p.6 日本ってどんなところ?
 - 神在月
- p.6 Che posto è il Giappone?
 - Kamiarizuki, il mese degli dèi
- p.10 日本びっくり体験記
- p.10 Le mie sorprese in Giappone
- p.11 ぶらりイタリア散歩道
 - フォッジャに行こう!
- p.11 A spasso per l'Italia
 - Andiamo a Foggia!
- p.15 Ciao! Journal in piazza
 - 掲示板/annunci



Ciao! Journal Pubblicazione Periodica

Registrazione

Tribunale di Milano n°53 del 23/01/2017

Direttore Editoriale Junko Kataoka

Direttore Responsabile Eugenio Bersani

Editing e pubblicità Geienneffe Editore S.a.s.

C.F. e Partita IVA: 09698530962

C.C.I.A.A. di Milano REA n°: MI-2108642

Mail: ciao@ciaojournal.com

Web: www.ciaojournal.com

Redazione: Junko Kataoka, Natsu Funabashi, Isato Prugger

Progetto grafico: Gabriel Suzuki Studio

Revisione in italiano: Fulvio Cattaneo

Traduzione in italiano: Natsu Funabashi

Hanno collaborato a questo numero:

Michiko Arikawa, Nanako Suezaki, Masao Yamanashi

Foto in copertina: Natsugrafa

Illustrazione: Nanako Suezaki

Tipografia: Gruppo Stampa GB s.r.l.

Viale Edison, 627 - 20099 Sesto san Giovanni (MI)

Finito di stampare nel mese di settembre 2026

Riproduzione riservata ©Geienneffe Editore S.a.s.



GAGHE
korean & japanese food shop

가게
korean & japanese food shop

korean & japanese food shop

Via Piacenza, 24 - 20135 Milano
Tel. 02 84076284
M3 Porta Romana



NANA CALVIA

かけあし イタリアのニュース



2026年6月

●16日、キエフの11世紀のユネスコ文化遺産「洞窟の僧院」をロシアが爆撃。英国が16歳以下の青少年にSNS禁止。●17日、仏G7でトランプ大統領と各国首脳が共同でロシアに立ち向かうことで合意。教皇レオ14世「難民の強制送還はキリスト教的ではない」。●18日、米国とイランの電子署名完了。船舶のホルムズ海峡通過開始。高校卒業試験開始。●20日、トランプ大統領G7の席で「メロニ首相と一緒に写真を撮ってと懇願した」。●21日、トランプ大統領の姪「叔父の認知機能は衰えている」。コリエーレ紙「2026年1月、伊の輸出高が史上初めて日本の輸出高を上回る」。●22日、6月現在50%のみ開放されているホルムズ海峡を「イランがまた閉鎖すれば絶滅させてやる」とトランプ大統領。タイヤーニ外務大臣「イタリアは米国の同盟国であって下僕ではない」。●22日、英国スターマー首相辞任。●24日、リビアで拘束されていたフロティッラ乗組員2名が1カ月ぶりにイタリアへ帰国。●25日、NATO事

務総長ルッテ氏の「米国戦闘機500機がイタリアからイランへ出発した」発言を伊政府が否定。エミリア・ロマーニャで41度、高温による犠牲者5人、スペインでは108人。仏で42人溺死。ウフィツィ美術館でエアコン故障、入場を一時停止。16州で12時半から16時の戸外労働禁止。ベルルスコーニ家所有のチェルトーザ邸がカタル王族の手に。●24日、ベネズエラでM7.5。国鉄の運行状況に改善が見られないと、サルヴィーニ運輸大臣がドンナルンマ総責任者解任。09年のヴィアレージョ国鉄事故（死者32名）で懲役5年のモレッティ前国鉄総責任者が自主的に入獄。チャールズ英国王がバッキンガム宮殿に居住しない旨を発表。●26日、イスラエルとレバノンが停戦合意書に署名。●27日、ロッチェッラ家庭大臣の夫がヴィテルボの湖でボートから落ち行方不明。●29日、コリエーレ紙「欧州の猛暑で6月21日以来死者1300人」。●30日、ベネズエラ地震の死者1700人、行方不明5万人。米最高裁がトランプ大統領の国籍出生主義制限令を無効に。

7月

●1日、スイスでルフェーブル派が教皇の意に反して司教4名を選出し、パチカンが関係者を破門。●4日、ローマのイスラエル病院で麻酔薬フェンタニル80本が盗まれる。NATOがカナダと共同でキエフ支援に1400億

ユーロ。米国建国250周年記念日、レオ14世がランパドゥーサの難民墓碑で祈る。「アメリカは移民によって形成された」。テヘランのハメネイ師の葬儀に1500万人。●5日、ミラノのサン・シーロ地区で通行人が刃物で20カ所刺される。W杯で米国代表のバログンの出場停止処分をトランプ大統領が延期させる。●6日、フィレンツェのピーノ鉄橋架け替えて幹線鉄道閉鎖、イタリアが2週間分断。●8日、ロシアに極秘情報を売っていた前秘密警察官2名ローマで逮捕。●9日、コリエーレ紙「ホルムズ海峡閉鎖で原油価格が8%上昇」。ドロミティ山脈に監視員を配置してオーバートゥーリズム対策。●10日、ミラノのドウオモ駅で女性がアルジェリア籍の男に顔を刺される。リリアナ・セグレ上院議員のヘイターに初の有罪判決（懲役4ヶ月）。ライアンエアーで窓が割れて乗客1人の半身が機外に吸い出される。●11日、3度目の熱波襲来。アンダルシアで山火事による死者12名。50年前ミラノ近郊のセヴェソで化学工場爆発、ダイオキシン噴出事故の追悼式にマッタレッラ大統領出席。コリエーレ紙「医療サービスランキング1位はヴェネト州」。●12日、シナーがウィンブルドン優勝。米国がホルムズ海峡爆撃。●16日、2018年ジェノヴァのモランディ高架橋崩落事故（死者43人）で、Autostrade社経営責任者とインフラ省の道路管理責任者含む32人

最高級品種の日本種米
安心安全の減農薬栽培米
さてもおいしいお米

ポポロ屋はイタリアにおける販売代理店です。
Poporoya è distributore esclusivo per l'Italia.

Via Eustachi, 20 Milano
☎ 02-29406797
info@poporoyasrl.it

Aperto tutti i giorni
Lun - Sab 9:30 - 14:00 / 17:30 - 21:30
Dom 11:30 - 14:30 / 18:30-21:30

RISO GIAPPANESE QUALITÀ SUPERIOR DA CHICCO GIAPPANESE. COLTIVAZIONE BIO. BUONO ANCHE QUANDO SI RAFFREDDA.

最高級品種 日本種米です。
安心安全の減農薬栽培米で
冷めてもおいしいお米です。

新米
みのり
減農薬栽培米
日本種
MINORI
DELTA OF THE EBRO

www.oapsa.com OKURA Y ASOCIADOS PRODUCTS, S.A.

↓
ようとの議論が生じている。

もう一つ。ロッジェーロ一家が激しい暴力と脅迫を受けたことで「怒りで見境がなくなっていた可能性」に関してはどう考えるか。刑法第90条では「怒り、恐怖、熱狂、苛立ちなどの感情に襲われていた場合においても犯罪責任はある」と定めている。

今回の場合、有罪判決を免れる唯一のケースは、「全く状況を理解できない状況に陥っていた」つまり「一時的な狂気に陥った状態」であるが、これは厳密な精神医学的鑑定で証明されなければならない。ロッジェーロ氏の行動は明晰、自発的で意図的だったことから、これに該当しない。

情状酌量と恩赦

故意の殺人は刑法第575条で懲役21年以上と定められている。2人を殺害し、3人目に重傷を負わせ、ピストルを違法に所持していたマリオ・ロッジェーロは、通常なら30年を超えるところを14年9か月の刑となった。刑が半減されたのは、殺人を含む全て

が「強盗に遭ったこと」に起因することから、情状酌量された結果である。

判決から僅か3日後の7月17日、妻は夫の恩赦を申請した。恩赦は、「憲法裁判所が共和国大統領にのみ行使を認めている特権的制度」（2006年の判決第200号）であって、「一定期間服役した受刑者が、改悔し、行いを正し、法を遵守する姿勢を取り戻したこと」を評価した上で与えることが可能となるものだ（憲法第27条）。にもかかわらず、カルロ・ノルディオ法務大臣が、最高裁による判決理由も公表されないうちから、夫人による申請を受けて恩赦の手続きの開始を発表。この動きに、マッタレッラ大統領は同大臣をクイリナーレに召喚し、恩赦付与に関する憲法上の制約について注意喚起することとなった。

ロッジェーロ氏の運命は如何に？

法律に鑑みてロッジェーロ氏に有罪判定が課された経緯は理解できたものの、「強盗なのだから殺されても仕方ない。悪いのはあくまでも押し入った方であり、ロッジ

に有罪。●18日、トリノ近郊で車椅子の息子を押し、車道を横断した79歳男性が、「横断歩道を渡らなかった」と通りすがりのドライバーに刺殺される。●19日、W杯決勝でスペインが1-0でアルゼンチンに勝利。ボローニャで正気を失ったモロッコ人男性が警官2名に取り押さえられて死亡。ミラノでテニスボール大の雹が降り数十人が怪我。●20日、英国新首相にバーンハム氏。イエメンのフーシ派が紅海の入口封鎖。●23日、市の説明会に超ショートパンツで出席したりボルノ副市長が市民の批判的。ミラノのサン・ラファエレ病院で、体外受精のカップルの受精卵が別の女性患者の子宮に誤って移植され、すぐに発覚して胚を取り除く処置が行われた。高市首相の「3時間睡眠」をコリエレ紙が掲載。●24日、14歳以上の未成年の犯罪が刑罰の対象になり得る法案が閣僚会議で可決。欧州中央銀行が新ユーロ札のデザイン発表（ダ・ヴィンチ、マリア・カラス、ベートーヴェン等）。●25日、ローマからフィラデルフィア行きのアメリカン航空で乗務員6名が体調不良を訴えダブリンに緊急着陸。仏とスペインで大規模山火事、20万人避難。●26日、トリノ近郊の新幹線敷設工事に反対（No TAV）して2000人が覆面で乱入し破壊行為、警官60人負傷。ベルリンのプライドデモにトラックが突っ込み死者1人、負傷者15人。バンコクに修学旅行中

エーロ氏はすぐに釈放されるべき」という意見も多く見られ、大きな議論を呼んだ。その筆頭に立つサルヴィーニ副首相は刑務所にロジエーロ氏を何度も訪ね、判決は行き過ぎだと非難し、彼もロジエーロ氏の妻による即時の恩赦要請を公けに支持している。「真面目に働いて身を守るイタリア国民の象徴」として同氏をレーガ党議員に推薦するとまで公言した。

短絡的な刑罰至上主義や、罪の代償を命で支払わせる死刑制度は、依然、日本を含む世界各国に存在する。一方、死刑の存在しないイタリアでは厳罰が避けられない場合でも、最終的に被告個人の具体的な背景を考慮し、刑を軽減できる権限を国家元首に与えている。「罪を犯したから罰して終わり」ではなく、「道を踏み外した人間においても命を尊重し再生を重要視」（憲法第27条）しているのである。

Masao Yamanashi

のイタリア人高校生グループが地下鉄で現地の女性を侮辱する様子がSNSで拡散、在タイのイタリア大使が陳謝。●28日、熊本でM7.1。選出に混乱を極めたサッカー監督にマンチーニ氏。仏南部の民家で乳児5人の遺体発見。ボスニアの聖地メジュゴリエ教会で男が聖母マリアの像を破損し祭壇に放火。●31日、国際刑事裁判所の逮捕状を無視して伊政府が特別機で自国に送還したりビア軍人アルマスリに、ノルディオ法務大臣が逮捕状。アフリカのスペイン領セウタに徒歩と泳ぎでモロッコ人難民6万人押し寄せる。メッシーナで家屋崩落、行方不明6人。ナポリで40年間で最大のM4.7。

8月

●1日、セウタの難民殺到事件でイタリアがスペインとの国境を8月15日まで閉鎖。ペルーでナスカ遺跡観光用小型機が墜落、イタリア人乗客7人死亡。●2日、ボローニャ駅爆破46周年追悼式典でメローニ首相がネオナチの犯行であった事実言及せず。ブルガリアでユダヤ人スカウト300人の宿泊するホテルをネオナチが襲撃。●5日、5月にマルタの高校に爆弾予告をしたイタリア人高校生、成人用刑務所に72日前から監禁。全国27都

市で高温警報。行方不明のロッチェッラ大臣の夫が死体で発見される。●7日、コリエレ紙「観光客の間で日傘の使用が普及」。●8日、スペインとの国境を閉鎖中のイタリアに対し、スペインが入国するイタリア人を対象に対抗措置。トルコ、サウジアラビア、パキスタンが3国同盟。●10日、セウタに難民が押し寄せた事件でモロッコの若者50人行方不明。コロンビアでM7.4。●11日、2024年12月ロシアに亡命したシリアのアサド国王にシリアの裁判所が死刑判決。●12日、欧州で27年ぶりの皆既日食。●13日、エトナ火山噴火活発、カタニア行きフライト700便キャンセル。欧州国境沿岸警備機関の「EU加盟国の難民受入れ数」で、本年7月までに伊に入国した難民数が独の約半数であることを受け、独が自国の難民をイタリアに送還する旨決定。コリエレ紙「人口83人のアブルツォ州Villa Santa Lucia村の平均年齢65.2歳で国内最年長」。●15日、マクロン首相が推進する15歳以下のSNS使用禁止令を仏憲法裁判所が「表現の自由を制限する」と棄却。

Michiko Arikawa



ASSOCIAZIONE
ITALIANA
RISTORATORI
GIAPPONESI

www.ristoratorigiapponesi.it
info@ristoratorigiapponesi.it



全すし連



Vuoi entrare a far parte di AIRG?
VISITA IL NOSTRO SITO O SCRIVICI UNA MAIL

全国すし商生活衛生同業組合連合会
Japan Sushi Federation
<https://sushi-all-japan.com>

イタリアに少しでも興味をお持ちの方は、お気軽にご入会ください

神戸日伊協会

ASSOCIAZIONE ITALO-GIAPPONESE DI KOBE
日伊両国間の、民間レベルでの相互理解、友好親善を深め、あわせて会員間の親睦をはかります。

■神戸日伊協会・年会費

個人会員お一人 5,000 円

*ベア会員 8,000 円

法人会員一口 30,000 円<いずれも税込み>

*ベア会員=ご夫婦、親子など、会費等の送付先、その他連絡先が同一の方

〒651-0096 神戸市中央区雲井通7-1-1 「ミント神戸」17 階
神戸新聞文化センター (KCC内)

神戸日伊協会

TEL. 078 (265) 1100 FAX. 078 (265) 1105



日本ってどんなところ？

神在月



出雲大社の正面の鳥居をくぐると、美しい「松の参道」が本殿へと続く。下り坂になっている全国的にも珍しい参道。八百万の神様が通る神聖な道です。
 /Attraversando il torii principale del Santuario di Izumo, il bellissimo "Viale dei Pini" (Matsu no Sandō) conduce fino all'edificio principale del santuario. È un sentiero in discesa, una caratteristica piuttosto rara. Si tratta di una via sacra percorsa dagli otto milioni di kami (Yaoyorozu no kami), le innumerevoli divinità della tradizione shintoista.

Ciao! Journal 2025年5-6月号で、日本の旧暦の各月の呼び名である「和風月名」（わふうげつめい）についてお話ししました。その際、10月は「かなづき」であると紹介しましたが、これを漢字で書くと「神無月」となります。「神様が無い」ですって？どういうことでしょうか？

この時期、島根県の出雲大社に於いて年に一度の神様の会議が開かれるため、八百万（やおよろず）の神々が出雲に駆けつけます。つまり、日本全国において一時的に神様が一斉にいなくなるからなのです。出雲大社では、毎年旧暦10月10日（今年2026年は11月18日に相当）の夜に「神迎祭」（かみむかえさい）が行われ、全国の神々を迎えます。

ということから、神様が結集する出雲地方でだけは10月の和風月名は「神在月」（かみありづき）というのだそうです。そして面白いことに、同じ島根県であっても出雲以外の地域ではちゃんと「神無月」という言葉が使われています。

ここからが本題です。なぜ神様の会議は「この時期」に「この地域」にて行われるのでしょうか。

時期に関しては、年も押し迫った頃ですのでまずは本年の収穫に感謝し、翌年の天候や農作物の収穫についてもそろそろ話し合っていかなければならないからなのですが、実はこの会議でやるべき大切なことが別にあるらしいのです。「来年は人間世界の誰と誰をめぐり合わせるか」を皆で決めていくんだとか（出雲大社は「縁結び」の総本山とされています）。

では、神々はなにゆえ出雲に集まるのでしょうか。これに関してはこれから皆さんと一緒に謎解きをしていきたいと思います。そのためには、まずは日本の神々の中から代表的な5人の神様の物語を聞いていただかなければなりません。

日本の神話に登場する神様はギリシャ神話の神々と同じで、いずれも完璧な存在ではなく、非常に人間的で個性豊かです。拗ねて引きこもったり、嫉妬していじめたり、大人になりにくく暴れたり、母を恋しがったり、あるいは好きな女性のために命をかけて戦ったり

Che posto è il Giappone?

Kamiarizuki, il mese degli dèi

Nel numero di maggio-giugno 2025 di Ciao! Journal avevamo parlato dei *wafū getsumei* (lett. "nome dei mesi in stile giapponese"), ovvero i nomi tradizionali attribuiti in Giappone a ciascun mese dell'anno, soffermandoci in particolare su *Kannazuki*, il mese di ottobre. I kanji che compongono questo nome sono *kami*, "divinità" + *na*, "nulla" + *tsuki*, "luna": ma che cosa significano esattamente? Che "non ci sono le divinità"?

In questo periodo dell'anno, gli *Yaoyorozu no Kami* (lett. "gli otto milioni di dèi", espressione utilizzata per indicare l'innumerevole moltitudine delle divinità) si riuniscono presso il Santuario di Izumo, nella prefettura di Shimane. È proprio a questo evento che si lega l'espressione secondo cui, mentre le divinità lasciano le proprie dimore per recarsi a Izumo, il resto del Giappone rimane temporaneamente "senza dèi". Ogni anno, presso il Santuario di Izumo (Izumo Taisha), nella notte del 10° giorno del decimo mese del calendario lunare (che quest'anno cade il 18 novembre), si svolge il *Kamimukaesai* (lett. "cerimonia dell'accoglienza degli dèi"), durante il quale vengono accolte le divinità provenienti da tutto il Paese.

D'altro canto, esclusivamente nella regione di Izumo, il nome tradizionale del decimo mese è *Kamiarizuki* (lett. "il mese in cui ci sono gli dèi"), mentre nel resto di Shimane, anche se si tratta della stessa prefettura, viene utilizzato il termine *Kannazuki* ("il mese senza dèi").

Ma veniamo al dunque: perché, secondo la tradizione, gli dèi si riuniscono proprio in questo periodo dell'anno e proprio in questa specifica area del Giappone?

Per quanto riguarda il periodo dell'anno, la riunione delle divinità cade proprio in prossimità della sua conclusione: è il momento in cui si ringrazia per il raccolto ottenuto e, allo stesso tempo, si comincia a guardare all'anno che sta per arrivare, discutendo del clima e dei raccolti. Durante questa grande riunione, tuttavia, le divinità devono prendere una decisione molto importante: stabilire "quali legami e unioni sentimentali creare tra gli esseri umani nell'anno che verrà". Il Santuario di Izumo rappresenta infatti il luogo per eccellenza dell'*enmusubi*, il "legame del destino" che unisce le persone e determina gli incontri e le relazioni della loro vita.

Ma allora, perché proprio il Santuario di Izumo? Proviamo a indovinarlo tutti insieme. Prima, però, è necessario conoscere la storia dei cinque *kami* (termine giapponese per "divinità") più importanti tra gli innumerevoli dèi della tradizione giapponese.

Le divinità giapponesi ricordano quelle della mitologia greca: non sono esseri perfetti, ma possiedono caratteri e personalità profondamente umani. Si offendono e si ritirano, si ingelosiscono e, di conseguenza, maltrattano gli altri; si agitano come bambini, sentono la mancanza della propria madre e, talvolta, arrivano persino a combattere mettendo a rischio la propria vita per proteggere la donna amata: ogni divinità ha una propria storia. Che abbiano inizio i racconti!

La creazione delle terre di Izanagi e Izanami

Tanto tempo fa, le divinità vivevano nel mondo celeste chiamato Takamagahara. Nel "Kojiki", il testo più antico che raccoglie e narra le

と、それぞれの神様に様々な物語があるので。
では、はじめり、はじめり～。

イザナギとイザナミによる「国生み」

ずーっと昔、神々は天の上で暮らしていました。そこは「高天原」（たかまがはら）と呼ばれる天上世界でした。その頃はまだ、天の下で地上は固まっていませんでした。日本の神様の物語を描いた『古事記』には、生まれたばかりの地上は「油のようにドロドロと、クラゲのように頼りなく漂っていた」とあります。聖書の『創世記』の「地は形なく、むなしく、闇が深淵の面にあり」といった世界観を彷彿とさせます。

ある日、男女2人の神が選ばれて、混沌とした地上の全面修理を命じられます。男の神様は伊邪那岐命（イザナギノミコト）、女の

神様は伊邪那美命（イザナミノミコト）。修理道具として長い矛（ほこ）がわたされました。2人は、高天原の端にある、地上を見下ろせる橋に立って、遥か下のドロドロの海に矛を突き立ててかき混ぜました。その矛をゆっくり引き抜くと、刃の先から雫が滴り落ち、それが固まって一つの島になりました。それは淡路島のすぐそばにある島とされていますが、どれかは定かではなく、いくつかの島がその候補になっています。

イザナギとイザナミは自分たちが作った島に降り立ちました。二人はそこで夫婦となり、どんどん島を生み出していきます。そして徐々に日本列島が形作られていったのです。

アマテラスの引きこもり

天照大神（アマテラスオオミカミ）は太陽を象徴する女神であ



storie degli dèi, si racconta che, agli albori della creazione, la Terra apparisse come un liquido simile all'olio e fluttuasse alla deriva, come una medusa. Ricorda la Genesi, secondo la quale la Terra era informe e deserta, dove le tenebre ricoprivano l'abisso.

Un giorno, un dio e una dea vennero scelti per sistemare la Terra, ancora immersa nel caos. Il dio era Izanagi-no-Mikoto, la dea Izanami-no-Mikoto, e venne loro affidata una lunga lancia. I due si recarono sul ponte sospeso all'estremità di Takamagahara, dal quale era possibile osservare la Terra sottostante, e immerse la lancia nelle acque dell'oscuro mare primordiale, mescolandole.

Quando la estrassero lentamente dall'acqua, alcune gocce caddero dalla punta della lancia. Solidificandosi, le gocce si trasformarono in isole. Secondo il racconto, una di queste sarebbe sorta accanto all'isola di Awaji, ma la sua esatta identificazione non è certa: esistono infatti diverse ipotesi sulla sua possibile posizione.

Izanagi e Izanami scesero quindi sull'isola che avevano creato e lì si unirono in matrimonio. Dalla loro unione nacquero altre isole che, una dopo l'altra, diedero forma all'arcipelago giapponese.

Il ritiro di Amaterasu

La dea Amaterasu Ōmikami rappresenta il Sole, è l'unificatrice di

Takamagahara e la divinità più importante della mitologia giapponese. Può essere paragonata a Zeus nella mitologia greca.

Amaterasu ha un fratello minore, Susanoo-no-Mikoto, dio delle tempeste e del mare. È però una divinità dal carattere irruento: è solito piangere e urlare, scatenarsi e combinare disastri, senza occuparsi dei compiti che gli sono stati affidati.

Un giorno, esasperata dalle intemperanze del fratello, Amaterasu decide di nascondersi all'interno di una caverna. Dal momento che è la dea del Sole, la sua scomparsa fa piombare nell'oscurità non solo Takamagahara, ma anche il mondo terreno. I raccolti vengono meno, gli spiriti maligni iniziano a comparire ovunque e il mondo sprofonda nel caos.

Le divinità, in difficoltà, escogitano allora uno stratagemma: decidono di festeggiare, cantando e ballando davanti alla caverna in cui Amaterasu si è nascosta. Fanno inoltre appollaiare alcuni galli su un albero davanti all'ingresso, affinché cantino e facciano capire ad Amaterasu che è ormai arrivata l'alba. I *torii*, i caratteristici portali degli edifici sacri shintoisti, sarebbero legati a questo episodio: il loro nome è infatti scritto con gli ideogrammi *tori*, "uccello" e *i*, "stare, trovarsi", con il significato letterale di "luogo in cui stanno gli uccelli".

Incuriosita dal clamore che sente provenire dall'esterno, Amaterasu



出雲大社の神楽殿（かぐらでん）の大しめ縄は長さ約13.6m、重さ約5トン。稲わらが傷んでくると新しいものに架け替える。今年7月21日、8年ぶりに取り替えられた。なお、「神楽殿」とは歌や踊りで神様を楽しませるための舞台を再現した建物。アマテラスオオミカミが天岩戸（あまのいわと）に隠れた際に神様が踊って騒いだという神話が、「神楽」のルーツとされている。

Il grande shimenawa (la corda sacra) del kaguraden, il padiglione delle danze rituali, del Santuario di Izumo è lungo circa 13,6 metri e pesa circa 5 tonnellate.

Quando la paglia di riso inizia a deteriorarsi, viene sostituita con una nuova. Il 21 luglio di quest'anno, dopo otto anni, lo shimenawa è stato sostituito. Il termine "kaguraden" indica un edificio che riproduce il palco dove, attraverso canti e danze, si intrattengono le divinità. Secondo la mitologia, le origini del kagura (musica, canti e danze rituali eseguiti in onore delle divinità) risalgono all'episodio in cui Amaterasu Ōmikami si nascose nella grotta di Ama no Iwato: le altre divinità avrebbero iniziato a danzare e fare chiasso per attirarla fuori.

り、高天原の統治者、そして日本神話における最高神です。ギリシャ神話におけるゼウスのようなものです。

アマテラスには須佐之男命（スサノオノミコト）という弟がいました。スサノオは嵐と海の神でしたが、いつも激しく泣き喚くばかりで役目をちゃんと果たさず、おまけに大変な暴れん坊でした。あまりの暴虐ぶりに姉は激怒し、岩の洞窟に隠れてしまいます。何しろアマテラスは太陽神ですから、その彼女が引きこもったとなると、高天原も地上の世界も真っ暗に。さあ大変！作物は育たず、悪霊が次々と現れ、大混乱に陥りました。

困り果てた神々は知恵を絞ります。アマテラスが籠る洞窟の前で歌ったり踊ったりのお祭り騒ぎをしようということになります。ニワトリを集めてきて洞窟の前の木の上にとまらせ、鳴かせたりもしました。ニワトリは朝が来たことを告げる鳥です。アマテラスに「もう朝が来ましたよ」と知らせようとしたのです。尚、この「鳥が居る木」が「鳥居」（とりい）の由来です。

さてさて、洞窟の中のアマテラスは、神々の思惑通りに外の様子

に興味を持ったらしく、岩の戸を少しだけあけてみます。やったぞ、今がチャンスとばかり、力持ちの神が重い岩の戸を全部あけ放ちます。

女神の手を引いて外へ連れ出すと、たちまち世界は光に満ちました。そして、この岩戸が2度と閉じないように縄を張り巡らせ、「中へ戻ってはなりません」とアマテラスに告げました。この縄が「しめ縄」の起りです。しめ縄は、神聖な区域と現世を隔てる境界を示すものとなり、不浄なものや邪気の立ち入りを防いでいます。巨石や巨木に張られているのを、皆さんもご覧になったことがあると思います。しめ縄が張られた場所や物は、神聖なものとして扱われます。

apre uno spiraglio nella porta di roccia e sbircia fuori per vedere che cosa stia succedendo. "Eccola!", esclamano le divinità. Le più forti spalancano la porta e, afferrando Amaterasu per la mano, la trascinano fuori dalla caverna. Non appena la dea torna all'esterno, il mondo si riempie nuovamente di luce. Per evitare che Amaterasu possa rientrare nella caverna, le divinità legano quindi la porta con una corda sacra. Da questo episodio sarebbe nata la *shimenawa* (lett. "corda che delimita"), utilizzata per segnare il confine tra lo spazio sacro e il mondo profano e impedire l'ingresso di impurità. Se vi è capitato di visitare un santuario shintoista, probabilmente avrete visto queste corde avvolgere grandi rocce, alberi o altri elementi naturali. Questi elementi, così contrassegnati, vengono considerati sacri e venerati come manifestazioni della presenza divina.

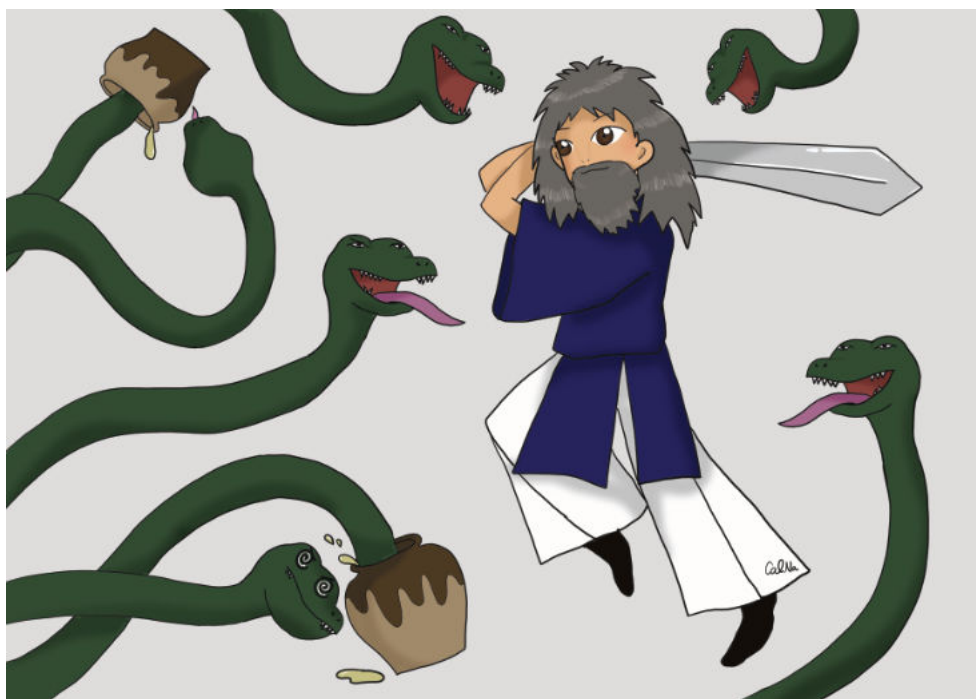
Susanoo, eroe ex bullo

Susanoo-no-Mikoto viene infine espulso da Takamagahara per il suo comportamento troppo irrequieto. Successivamente scende sulla Terra, nel Paese di Izumo. Ma perché proprio Izumo? In realtà, Susanoo, per usare una terminologia moderna, è un vero e proprio "mammone". Sua madre, Izanami, è morta ed è discesa nell'Aldilà, lo Yomi no Kuni. Secondo la tradizione, proprio nella regione di Izumo si troverebbe l'ingresso al mondo dei morti. Ecco perché Susanoo avrebbe scelto di scendere proprio nella terra di Izumo.

In quel periodo, gli abitanti del Paese di Izumo erano terrorizzati dalla presenza di un mostro

pericolosissimo: Yamata-no-Orochi, un gigantesco serpente con otto teste e otto code. Susanoo si innamora di una bellissima principessa, Kushinada-hime, che sta per essere sacrificata al mostro. Decide allora di intervenire: riesce a sconfiggere Yamata-no-Orochi e, da divinità turbolenta ed esiliata, si trasforma in un vero eroe. Come ricompensa, ottiene infine la mano della principessa.

Il racconto ricorda molto da vicino la vicenda di Perseo e Andromeda



不良あがりのヒーロー、スサノオ

暴れん坊のスサノオノミコトは高天原を追い出されます。そして出雲の国へと降りていきます。ですが彼はなぜ出雲を選んだのでしょうか。実はスサノオはマザコンでした。亡き母（イザナミ）は地の下にある「黄泉の国」（よみのくに）に行ってしまったのですが、出雲の国に地底の国への入り口があるとされていたのです。それ故、地上へと追われたスサノオは出雲の地を選んで降り立ったのでした。

ちょうどその頃、出雲に住む神々や人々は、八岐大蛇（ヤマタノオロチ）という恐ろしい怪物に苦しめられていました。1つの体に8つの頭と8つの尾がある巨大な大蛇です。生贄になりかけていた美しい姫に恋をしたスサノオは、怪物を退治して英雄となり、めでたく、その姫を妻とします。この話はギリシャ神話における「ペルセウスのアンドロメダ救出」の話に似ていますよね。

オオクニヌシの「国づくり」と「国譲り」

スサノオの娘と結婚したのが、大国主命（オオクニヌシノミコト）です。そして、このオオクニヌシこそが、日本を一つにまとめるための国づくりに尽力した神様です。かつてはドロドロの油のよ

うに浮遊していただけの地上が、オオクニヌシの時代によりやく、豊かで平和な一つの国として完成するのです。

オオクニヌシは非常に優しい性格をしていました。意地悪で嫉妬深い兄弟神たちに何度も殺されますが、その度に彼を愛する母親神や他の神々の助けによって蘇生します。数えきれないほど多くの困難を乗り越えて日本国を作り上げていくのですが、やっと完成したところで今度は天のアマテラスに、「日本の国を私の子孫に譲るように」と命令されます。心豊かなオオクニヌシは国を譲ることに同意し、その見返りに出雲に立派な宮殿を建ててもらいます。これが出雲大社であり、オオクニヌシは出雲大社の祭神（さいじん＝その神社に祀られている主役の神様のこと）となり、大国主大神（オオクニヌシノオオカミ）と呼ばれるようになるのです。

さあ皆さん、出雲で会議が行われる理由がこれでわかりましたね。神の会議は、オオクニヌシが作り上げた日本国について話し合うために、オオクニヌシが召集するものだからです。日本の各地を治める神々（うち180人はオオクニヌシの子どもたちだとか）が年に一度、各自担当の土地を離れて出雲大社へと出張するというわけです。

なお、出雲の怪物をやっつけたスサノオノミコトも出雲大社に祀られていますが、こちらは出雲大社の祭神ではありません。

神々の話はまだまだ続きますので、是非とも『古事記』を読んでみてください。イタリア語にも翻訳されていますよ（『Kojiki. Un racconto di antichi eventi』パオロ・ヴィッラーニ訳）。



オオクニヌシはどうしてウサギを抱いているのでしょうか。答は『古事記』の中にあります
／Perché Ōkuninushi tiene in braccio un coniglio? La risposta si trova nel “Kojiki”, l'antica cronaca della mitologia giapponese.

nella mitologia greca: anche in quel caso, un eroe salva una giovane principessa destinata a essere sacrificata a un mostro e finisce per prenderla in moglie.

La creazione e la cessione del Paese di Ōkuninushi

A sposare la figlia di Susanoo fu Ōkuninushi-no-Mikoto. Fu proprio lui a impegnarsi nella difficile opera di riunire e organizzare le terre, contribuendo alla formazione del Giappone.

Quelle terre che, agli albori della creazione, apparivano ancora come frammenti galleggianti simili all'olio, ai tempi di Ōkuninushi divennero un unico Paese, ricco e prospero.

Ōkuninushi aveva un'animo particolarmente gentile e benevolo. Venne più volte ucciso dai suoi fratelli, mossi dall'invidia e dalla cattiveria, ma ogni volta fu riportato in vita grazie all'intervento della madre e di altre divinità. Dopo aver superato innumerevoli difficoltà, riuscì finalmente a portare a compimento la sua opera e a dare forma a un Paese unito. Ma proprio quando il suo lavoro era terminato, Amaterasu gli ordinò di

cedere il Giappone ai suoi discendenti. Ōkuninushi, con grande magnanimità, accettò di rinunciare al Paese, ponendo però una condizione: in cambio di questa concessione, avrebbe dovuto essere costruito per lui un magnifico santuario. Fu così che nacque il Santuario di Izumo, dove Ōkuninushi divenne la principale divinità venerata con il nome di Ōkuninushi-no-Ōkami (lett. “la grande divinità padrone del Grande Paese”).

Bene, ora penso proprio che abbiate capito perché la riunione degli dèi avvenga proprio in questa parte del Giappone. La riunione degli dèi non sarebbe altro che una convocazione voluta dalla grande divinità Ōkuninushi per discutere del Paese che egli stesso ha contribuito a creare. Ogni anno, tutte le divinità che proteggono le diverse regioni del Giappone vengono convocate a Izumo e lasciano temporaneamente le proprie terre per raggiungere il Santuario di Izumo. Secondo la tradizione, tra queste vi sarebbero anche circa centottanta figli di Ōkuninushi.

Anche Susanoo-no-Mikoto, colui che sconfisse il mostro di Izumo, è venerato in questo santuario; tuttavia non è la divinità principale del santuario di Izumo.

E i racconti sulle divinità non finiscono certo qui! Se siete curiosi di conoscere le loro storie, non vi resta che andare a leggere il “Kojiki”, disponibile anche in traduzione italiana (Kojiki. Un racconto di antichi eventi, nella traduzione di Paolo Villani).

Junko Kataoka

Illustrazione: Nanako Suezaki

Traduzione in italiano: Natsu Funabashi

Le mie sorprese in Giappone!



みなさん、こんにちは！私はついに日本に行ってきましたよ！そして、びっくりしたことがありますから、写真を送ります。

日本の地下鉄のホームで、みんな線路の方を向かないで座っていました。椅子が変な方向を向いていました。本当に不思議ですね。どうしてですか？

ミラノのルカ

Ciao a tutti!

Finalmente sono stato in Giappone! Vi mostro una foto perché c'è una cosa che mi ha davvero sorpreso.

Sulla banchina della metropolitana, le persone erano sedute di lato rispetto ai binari. Le panchine, infatti, erano disposte perpendicolarmente ai binari, invece che rivolte verso il treno. È davvero curioso, no? Secondo voi, come mai?

Luca da Milano

ルカさん、お手紙ありがとうございます。

確かに、線路に対して90度の向きに設置されている椅子、変ですよ。関西の鉄道駅を中心に、10年ほど前からこのような設置の仕方が増加しているようですが、そこにはどんな理由があるのでしょうか。

これは、日本で多く見られる“酔っ払い”が、線路に転落することを防ぐための対策なんだとか。JR西日本が駅の防犯カメラの映像を分析した結果、「酔っ払いの約6割が、ベンチから立ち上がると、そのまま線路に向かってフラフラ進んでいく」ことがわかり、「では椅子を線路の方に向けられないようにしては？」というアイデアが浮かんだのだそうです。さすが発想が豊かな大阪人ですね。

それにしても、この写真のように1席ずつ縦にずらっと並んでいるのは異様ですよ。椅子を横にいくつか繋げては駅が狭くなる、というのも理由の一つですが、それだけではないのです。酔っ払いが椅子で酔いつぶれて寝込んでしまうのを防ぐためなんですって！

「日本ではそんなに酔っ払いが多いの？」とイタリア人の皆さんは驚いていることでしょう。はい、そうなんです。日本人はお酒を飲むと羽目を外してしまう人が多いんですよね…。

編集室

Ciao Luca san,

grazie mille per la tua lettera.

Sì è vero, quelle panchine posizionate a 90 gradi rispetto ai binari sono davvero bizzarre! A quanto pare, nelle stazioni ferroviarie del Giappone, soprattutto nel Kansai (la parte centro-ovest della penisola), questa disposizione sta aumentando da circa dieci anni. Ma perché? Qual è il vero motivo?

Si tratta di una misura di sicurezza per evitare che gli “ubriachi” cadano sui binari. Analizzando i video delle telecamere di sorveglianza, la JR West (West Japan Railway Company) ha scoperto che circa il 60% delle persone sbronze, una volta alzate dalla panchina, camminano dondolando dritto verso i binari. Da qui l'idea geniale: “E se girassimo le panchine dall'altra parte?”. Beh, i Kansai-jin si confermano sempre campioni di creatività!

Comunque, vedere tutti quei sedili disposti singolarmente, uno dietro l'altro come nella foto, fa un effetto davvero strano. Uno dei motivi per cui i sedili non vengono affiancati è sicuramente lo spazio ridotto della banchina, ma c'è anche dell'altro: questa disposizione serve a evitare che gli ubriachi possano sdraiarsi comodamente a dormire sulla panchina!

“Ma davvero in Giappone ci sono così tanti ubriachi?”, vi chiederete voi italiani. Ebbene sì, purtroppo c'è chi esagera quando alza il gomito…

La Redazione

※イタリア人の皆さん、日本に行ってみてびっくりしたことがあったら是非教えて下さい！

日本人の皆さんも、イタリアで何か驚いたことがあったら知らせて下さいね。

P.S. Amici italiani, se siete stati in Giappone e c'è qualcosa che vi ha lasciato sorpresi, raccontatecelo!

E anche voi amici giapponesi, se avete avuto uno shock culturale in Italia, fatecelo sapere scrivendo a ciao@ciaojournal.com.



ITALIAN CHAMBER OF
COMMERCE IN JAPAN
在日イタリア商工会議所



SEGUICI SU INSTAGRAM!
イタリアに恋しちゃおう？

Giacca leggera

上品かつ緻密な ジャッカ・レジェーラ

人それぞれの寸法を捉えることで生地は自然に垂れ、
美しいラインが生まれ、身体の一部となる。

着用者だけが特別な体感を得られる、究極のジャケット。



Barteria Asilone



イタリア文化会館
〒102-0074
東京都千代田区九段南2-1-30
email: iictokyo@esteri.it

ISTITUTO
italiano
di CULTURA
ROMA



Gli stampatori di Ciao Journal

Stampa piccole e grandi tirature,
vendita consumabili e prodotti per l'ufficio.

info@gruppostampagb.it | gruppostampagb.it



フォッジャに行こう！ Andiamo a Foggia!

オペラの作曲家ウンベルト・ジョルダノー（1867-1948）は、南イタリア州の都市フォッジャ（Foggia）の出身だ。今年の夏、ジョルダノーのためのイベント「ジョー・フェスティバル」に関する仕事で、私はこの町に2週間滞在することになった。

（※当記事には不適切な表現が多々あるかと思われませんが、フォッジャ出身の皆さん、どうか気を悪くしないで、クスッと笑いながら読んでくださいね。）

フォッジャから逃げ出せ！

フォッジャと聞くとイタリア人はこの諺を思い出すという。“Fug da Fòg, no pe Fòg ma pei fuggian.”（Fuggi da Foggia, non per Foggia ma per i foggiani. フォッジャから逃げ出せ。この町が悪いからではない。フォッジャの人のせいだ）。

フォッジャの人間は閉鎖的で冷たい。そんな意味が込められているらしいが、何よりもこの町の評判を下げているのは治安の悪さだという。「プーリア州で最も危険な町」とも言われているそうで、実際に私はフォッジャーニ（フォッジャの人）自身から「車で来ちゃダメだよ。パーツが盗まれるからね」と忠告された。

私が選んだ交通手段は、電車でもなく、飛行機でもない。長距離バスのFLIXBUS（フリックスバス）だ。ミラノから9時間かけて走るのだが、片道15ユーロと驚きの安さ。その代わり、座席の狭さに耐え、独特な乗客に耐え（私をはじめとし、乗っている人は誰もがどこか変わり者であった）、汚い車内トイレ（私は恐ろしすぎて入れなかった）に耐えなければならない。極めつけは「9時間走って休憩が1回」だったことだ。バスがサービスエリアに入ってくれたのは1回きり。だから私がトイレに行けたのは1回だけだった。

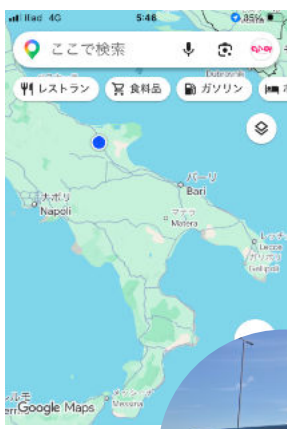
アパートは本当にあるのか

ミラノのバスターミナルから夜9時に乗り込んだ巨大な2階建て長距離バスは、運転手も添乗員も乗客も、私以外すべての人がプーリア人だった。出発するやダイナミックな運転ぶりが発揮され、車内は右に左に大きく揺れ続けた。映画『ハリー・ポッター』で見たあの夜行バスを思い出した。

目覚めた時には外はわずかに明るくなっていた。プーリアの麦畑が朝日に赤く染まってどこまでも広がっている。フォッジャについてのは予定通りの（これにはかなり驚いた！）朝6時10分。9時間も一緒に過ごした頃にはもはや旅の仲間にも思っていた運転手と添乗員を乗せたバスを、私は見送った。

さて、今回借りたアパートのチェックインは13時だが、それまでどうやって時間を潰すか。住宅街で適当なパールにおそろおそろ入り、カプチーノとコルネット（南ではプリオッシュは「小さなつの」と呼ばれる）を頼み、長居させてもらった。更には、アパートの方にも頼み込んでチェックインの時間を無料で早めてもらった（最初は追加料金を払ってほしいと言われたのだが…）。こうして私は、「フォッジャの人は皆が言うほど冷たくないじゃないか」と思いながらアパートに向かった。

「果たしてオーナーは本当に現れるのだろうか」とドキドキしな



Il compositore d'opera Umberto Giordano (1867-1948) era originario di Foggia. Ecco perchè, quest'estate sono andata in questa città pugliese per lavoro, in occasione del Gio Festival, un evento dedicato al compositore.

(Nota: questo articolo contiene probabilmente diverse espressioni poco appropriate. Agli amici foggiani chiedo quindi di non offendersi e di leggerlo con un sorriso, facendosi magari anche una piccola risata!)

Fuggi da Foggia!

La prima cosa che viene in mente degli italiani pensando a Foggia è probabilmente il famoso detto: “Fug da Fòg, no pe Fòg ma pei fuggian” (“Fuggi da Foggia, non per Foggia, ma per i foggiani”).

Il detto riflette lo stereotipo secondo cui i foggiani sarebbero chiusi e freddi. Tuttavia, il motivo principale della cattiva reputazione della città è soprattutto legato alla sicurezza. Foggia è infatti considerata una delle città più pericolose della Puglia e, in effetti, sono stati proprio alcuni foggiani a mettermi in guardia: “Non venite in macchina. Vi rubano i pezzi!”

Per scendere fino in Puglia non ho scelto né il treno né l'aereo, ma un autobus a lunga percorrenza, il FlixBus. La tratta Milano-Foggia dura circa nove ore e costa soltanto 15 euro. Tuttavia, l'altra faccia della medaglia sono gli spazi piuttosto stretti, i passeggeri decisamente particolari (a partire dalla sottoscritta: sembravano tutti personaggi davvero originali!) e il bagno non proprio pulito, tanto che non ho avuto il coraggio di entrarci. Inoltre, durante le nove ore di viaggio, il bus si è fermato in un'area di servizio una sola volta. Ebbene, ho potuto andare in bagno una volta sola!

Esiste veramente l'appartamento?

Con tutta fretta e furia, sono salita a bordo del pullman: enorme, a due piani, partiva dal terminal di Milano alle nove di sera. A bordo ci si sentiva già in Puglia: l'autista, l'assistente e i passeggeri erano tutti pugliesi, a parte me.

Il pullman è partito, rivelando subito la dinamicità con cui guidava l'autista: i passeggeri venivano sballottati da destra a sinistra e viceversa. Mi è venuto subito in mente il pullman notturno di Harry Potter.

Al risveglio, fuori dal finestrino cominciavano a vedersi le prime luci dell'alba: i campi di grano pugliesi si estendevano a perdita d'occhio, tingendosi di rosso sotto i primi raggi del sole.

Siamo arrivati a Foggia alle 6:10, proprio come previsto (con mio grande stupore!). Dopo nove ore di viaggio, ormai l'autista e l'assistente mi sembravano quasi dei compagni di viaggio. Li ho accompagnati con lo sguardo mentre il pullman si allontanava, portandoli via con sé.

Il check-in dell'appartamento che avevo preso in affitto sarebbe stato alle tredici e dovevo trovare un posto dove stare. Sono entrata in un bar in una zona residenziale, e ho ordinato un cappuccino e un cornetto e sono rimasta lì per ore. Nel frattempo, il proprietario di casa mi aveva anticipato gratuitamente il check-in, che inizialmente era previsto più tardi, così mi sono diretta verso casa pensando: “I foggiani non sembrano poi così freddi”.

Aspettando agitata il proprietario, mi chiedevo se sarebbe arrivato davvero e quando l'ho visto mi sono emozionata e sentita sollevata nel vedere finalmente di persona qualcuno che avevo sempre conosciuto solo attraverso internet o per telefono.

がら待っていると、コワモチのおじさんが現れた。ちょっと怖かったとはいえ、やっと実際の姿を見ることができた時には感動した。何しろこれまでインターネットと電話だけのやり取りで、数週間にもわたって大きなストレスを抱えていたのだ。それが一気に消え失せた。同僚4人で一緒に借りたアパートを巡って私たちは、「本当にアパートはあるのだろうか。騙されていないだろうか」と繰り返し議論していたのだ。

アパートは存在した。しかも200平米にもなる広いアパートだ。これから2週間、4人で快適に過ごせそうだ。悪くないじゃんフォッジャ。

フェデリーコ2世

プーリア州北部に広がるプーリア台地 (Tavoliere delle Puglie) は、北イタリアのPianura Padana (ポー平原) に次いでイタリアで2番目に広い平原である。その中心に位置するのがフォッジャだ。

プーリア州は「イタリアの穀物倉庫」と呼ばれ、パスタの原料となる硬質小麦 (グラノー・ドゥーロ) の一大産地だ。全国の硬質小麦の総生産量のうち、4分の1がフォッジャの辺りで生産されているという。尚、フォッジャ (Foggia) という名前はラテン語の "fovea" (穴) に由来し、「地面に掘られた古代の地下穀物倉庫」を意味している。

狩好きのフェデリーコ2世 (神聖ローマ皇帝・シチリア王) は、プーリアに初めて足を踏み入れた時から、豊かな森と広大な湿地帯が広がるフォッジャを深く愛したという。1221〜50年、フォッジャの町はフェデリーコ2世の本拠地となり、1223年に帝国宮殿 (パラッツォ・インペリアーレ) が建設されてからはシチリア王国の政治・文化の中心となった。

1229年、教会と対立していた彼が十字軍遠征から戻ってみると、ローマ教皇の命令で城壁の門が閉ざされていた。閉め出されたフェデリーコ2世が "Fogia cur me fugis, cum te fecit mea manus?" ("Foggia, perché mi sfuggi, giacché la mia mano ti costruì?" フォッジャよ、なぜ私から逃げようとするのか。私の手がお前を築き上げたというのに) と高らかに言い放つと、それを聞いた民衆は門を開けて彼を迎え入れたという。この感動的な名言が、冒頭で紹介した "Fuggi da Foggia, non per Foggia ma per i foggiani" に変化してしまったのである。

フォッジャの旧市街は上から見ると馬の頭の形をしている。そのシルエットは正にフェデリーコ2世を象徴するようで、ロマンがある。

「73日間の首都」と「羊の税関」

フォッジャは1282年からナポリ王国に属したが、その長い歴史の中で73日間だけ同王国の首都になったことは、市民が今なお誇りに思う歴史的事実だ。

1797年6月25日に、ナポリ王国の王太子フランチェスコと、オーストリアの女帝マリア・テレジアの孫娘マリア・クレメンティーナとの結婚式が、執り行われることになった。だがナポリまでの道のりが遠すぎるということで、ウィーンとナポリの中間地点であるフォッジャが合流地として選ばれ、ナポリから全宮廷が一斉に移動してくることになった。と同時に、政府機能も一時的にフォッジャに移されたのだ。結婚式が終了し、宮廷がナポリへ戻ったことで、フ

Lo stress che mi portavo dietro ormai da tempo, alimentato anche dai continui dibattiti tra i colleghi sull'esistenza stessa dell'appartamento, era svanito in un attimo.

L'appartamento esisteva davvero e, tra l'altro, era pure spazioso: con i suoi 200 metri quadri, ci avrebbe permesso di vivere comodamente in quattro. Foggia non sembra poi così male.

Federico II

Il Tavoliere delle Puglie, che si estende nella parte settentrionale della Puglia, è la seconda pianura più grande d'Italia dopo la Pianura Padana. Foggia si trova proprio al centro del Tavoliere.

La Puglia, conosciuta anche come il "granaio d'Italia", è il principale produttore italiano di grano duro, arrivando a produrne circa un quarto del totale nazionale. Il nome "Foggia", inoltre, deriva dal latino *fovea*, che significa "fossa", in riferimento agli antichi granai sotterranei scavati nel terreno.

Federico II (imperatore del Sacro Romano Impero e re di Sicilia) amava la caccia e, fin da quando mise piede in Puglia, si innamorò di Foggia, allora circondata da rigogliosi boschi e vaste zone umide. Dal 1221 al 1250, Foggia fu la sede principale dell'imperatore e, con la costruzione del Palazzo Imperiale nel 1223, la città divenne uno dei principali centri politici e culturali del Regno di Sicilia.

Nel 1229, di ritorno dalle Crociate, Federico II si ritrovò fuori dalle mura della città, alle quali gli era stato impedito l'accesso per ordine del Pontefice. A quel punto, Federico II avrebbe pronunciato la celebre frase: "*Fogia, cur me fugis, cum te fecit mea manus?*" ("Foggia, perché mi sfuggi, se è stata la mia mano a costruirti?"). I foggiani, allora, aprirono le porte e accolsero l'imperatore. Questa celebre frase si è poi evoluta nel detto citato all'inizio dell'articolo.

Il centro storico della città di Foggia ricorda, nella sua forma, una testa di cavallo: la sua silhouette sembra quasi richiamare la figura di Federico II, conferendole un fascino particolare.

Foggia, capitale per 73 giorni e la sua Dogana delle Pecore

Foggia fece parte del Regno di Napoli dal 1282 e, nel corso della sua lunga storia, ne divenne capitale per 73 giorni, un fatto storico di cui i cittadini sono ancora oggi orgogliosi.

Il 25 giugno 1797 si celebrò a Foggia il matrimonio tra Francesco, re di Napoli, e Maria Clementina, nipote dell'imperatrice austriaca Maria Teresa. Poiché Napoli era troppo lontana, si decise di celebrare le nozze a metà strada e tutti i nobili napoletani si trasferirono temporaneamente a Foggia, dove venne spostato anche il centro politico del regno.

Una volta concluso il matrimonio, la corte tornò a Napoli e l'entusiasmo di Foggia come "capitale per 73 giorni" giunse al termine.

Foggia fu una città importante anche per l'economia del Regno di Napoli: dal 1468 al 1806 ospitò infatti la Dogana della Mena delle Pecore. Ogni anno, le greggi arrivavano dalle montagne dell'Abruzzo alle pianure pugliesi per trascorrervi l'inverno, dando vita alla tradizionale transumanza. Le tasse riscosse dalla Dogana costituivano una fonte di entrate essenziale per il Regno di Napoli.



フォッジャ旧市街の地図/L'antico centro storico di Foggia (fonte: Foggia Città Aperta)

オッジアの「73日間の首都」としての熱狂は幕を閉じた。

また、1468〜1806年の長きにわたり、フォッジアにはナポリ王国の「羊の税関」（Dogana della Mena delle pecore）という課税機関が置かれていた。アブルツォなどの山岳地帯から何百万頭もの羊の群れが、冬を越すための「トランスミューマンズ」（季節移動）でプーリアの平原にやってくるのだ。この税収はナポリ王国の最大の財政基盤になっていたという。

ダークなフォッジア

なんと、この町の壁はあちこちが葬儀告知ポスター（Manifesti funebri）で占められていた。これはイタリアの地方都市に行くとしばしば目にするものだが、フォッジアはその量が凄まじい。一周忌などの告知も多く、亡くなった人の顔写真と名前が祈りの言葉と共にそこかしこで見られる。私たちのアパートの近くの、シャッターが下りたまのタバコ屋にも、大きな写真が掲げられていた。3年前、強盗によって不幸にも殺害されてしまった店主だという。

わずか2週間の滞在中に「死」というものを、不思議なほど身近なものとして、何度も肌で感じた。

やっとプーリアを実感

ここはジョルダノの出生地なのだから彼はフォッジア人に愛されているのかと思いきや、住民はジョルダノを知らない…（ミラノでヴェルディを知らない人がいるだろうか？）。ウンベルト・ジ

Un volto più oscuro di Foggia

Foggia è tappezzata di manifesti funebri: si trovano praticamente su ogni muro della città. Anche nelle campagne italiane se ne vedono, ma mai in una quantità paragonabile a quella che ho trovato a Foggia. I manifesti annunciano non solo i funerali, ma anche le commemorazioni a un anno dalla morte, e riportano il volto e il nome del defunto, accompagnati da una preghiera. Vicino all'appartamento, invece, c'era un tabaccaio con le serrande abbassate, sulle quali era affissa una grande fotografia della proprietaria, purtroppo assassinata tre anni prima.

Durante le due settimane trascorse a Foggia, ho percepito più volte la morte come qualcosa di stranamente familiare.

Sentirsi in Puglia finalmente

Essendo la patria di Giordano, ci si aspetterebbe che i foggiani amassero il compositore, ma il suo operato rimane conosciuto poco, nonostante le sue statue erette in piazza Umberto Giordano (che sicuramente hanno avuto modo di venire apprezzate attraverso il Festival).

Nelle mie due settimane di permanenza, è stato difficile percepire la "pugliesità", anche per il fatto che fossi lì per lavoro, ad eccezione di un meraviglioso mercato dietro casa, dove si sentono le urla dei venditori di frutta e verdura fresca.

NEW PACKAGE



欧州産新こしひかり



アルプスの豊富な
雪解け水が流れ込んだ
イタリアの肥沃な大地で
選りすぐりの契約農家が
丹精込めて育てたお米が
今年も届きました。
田んぼから精米まで
日本の技術者に指導を受けた
旨みあふれる極上のお米を
お試しください。



ヨルダーノ広場には彼の銅像の周りに、そのオペラの登場人物の像も何体か立っているというのに…（今回のオペラ・フェスティバルで、ようやく意味を持つことが出来たかも）。

仕事で来ていたこともあり、2週間過ぎても「プーリアらしさ」をなかなか感じることができずにいた。恐ろしく大きな声が飛び交う市場で安くて新鮮な野菜を買うとき以外は…。

プーリアにいるのだとやっと実感できたのは、ミラノに戻る日だった。帰りのバスが22時半発だったので、仕事で知り合った地元の3兄弟が案内を申し出てくれたのだ。車でフォッジャの町を出ると、視界が一面金色になった。市内では暑かった車の中が、麦畑から吹き込むさわやかな風で涼しくなった。

半時間ほどで、有名なリゾート地であるイッポカンポ（Ippocampo）の海に出る。さらさらした砂の浜のなんとという美しさ。遠浅の海は深みのあるブルー。沖に向かって歩いて行くと、強い日差しと水の冷たさがうまく混ざり合って最高に心地いい。

牧場で水牛モッツアレラの串刺しを食べた後、フォッジャの町に戻ってパンツェロットを食べた。プーリアといえばプーファラとパンツェロットだ！パンツェロットをかじると熱々の湯気がたちのぼり、中からトマト汁がこぼれ出す。教わった通りにお尻を突き出し、仁王立ちして食べたので、服を汚さずにすんだ。

初日にお世話になったバールに行くと、オーナーはコーヒーをご馳走してくれた。毎日通ったスーパーも賑や



Piazza Umberto Giordano di Foggia
ジョルダーノ像の周りに立つのは、彼のオペラの登場人物たち／Le statue raffigurano i personaggi delle opere di Giordano.



フォッジャのロザティ市場／Il mercato Rosati a Foggia

Ho finalmente avuto modo di sentirmi in Puglia il giorno in cui sarei dovuta tornare a Milano. Il mio bus partiva alle 22:30, quindi ho avuto abbastanza tempo per farmi accompagnare da tre fratelli che ho conosciuto grazie al lavoro.

Usciti in macchina dalle porte della città, la vista si è colorata d'oro. Dentro la macchina, che era calda in città, è entrato il vento proveniente dai campi di grano, rinfrescando l'auto.

In una mezz'oretta siamo arrivati ad Ippocampo, un celebre villaggio marittimo: la spiaggia di sabbia era di una bellezza incredibile; i fondali erano bassi e degradavano dolcemente verso un blu profondo. Camminando verso il largo, si sentiva l'acqua fredda e calda mescolarsi, offrendo una dolcissima sensazione. Ho avuto poi modo di assaggiare alcune tipicità pugliesi: degli spiedini con la mozzarella di bufala, e il panzerotto tornati a Foggia. Dando un morso al panzerotto, il fumo bollente ha preceduto il sugo di pomodoro; per fortuna non mi sono sporcata, grazie alla posizione consigliata per mangiarlo: gambe divaricate e sedere all'indietro.

Ricordo con grande affetto il proprietario del bar dove mi sono fermata il primo giorno, il quale, quando sono tornata il giorno prima della partenza, mi ha offerto un caffè. Ricordo la cassiera del supermercato

チャオ！秋の日伊交歓祭 9月20日 | 20 settembre
ワクワクするフリーマーケット FACTORY NOLO
MERCATINO DELL'USATO
フリマだけじゃない！ワークショップも開催します！
Ci saranno anche dei workshop!

- 10:00-14:00 絵画教室 『富士山の風景』
Pittura: "Veduta del Monte Fuji" — 50 €
講師 docente: Franco Calcagni
- 12:30-13:30 日本語入門
Introduzione alla lingua giapponese — 10 €
講師 docente: Natsu Funabashi
- 13:45-14:45 イタリア語会話「ことわざ」
Lezione di italiano: "Idiomi" — 10 €
講師 docente: Giovanni Calzone
- 14:30-15:15 音楽教室 (3歳〜5歳+保護者)
Workshop Musica (3-5 anni + genitore) — 8 €
講師 docente: Yumi Shimizu
- 15:30-16:15 音楽教室 (6歳〜10歳)
Workshop di musica (6-10 anni) — 8 €
講師 docente: Yumi Shimizu

ワークショップ参加予約 / PRENOTAZIONI WORKSHOP
CIAO@CIAOJOURNAL.COM

CIAO! Journal年間定期購読 / CIAO! Journal Abbonamento annuale

●印刷版…22ユーロ（イタリアのご住所のみ）
の「お振り込みデータ」「ご氏名」「ご住所」
をciao@ciaojournal.comまでお送り下さい。
Geiennette Editore S.a.s.
IBAN: IT13M0623001602000057063791

※PayPalでお支払いの方はwww.ciaojournal.com→「定期購読」をご覧ください。

●Abbonamento annuale CIAO! Journal in versione cartacea…22euro
(l'abbonamento è rivolto esclusivamente ai residenti in Italia)
Dopo aver fatto il bonifico, invia la ricevuta del pagamento all'indirizzo
ciao@ciaojournal.com

con il nome e l'indirizzo su cui desideri ricevere Ciao! Journal.

- Fai il bonifico al seguente IBAN:
Geiennette Editore S.a.s.

IBAN: IT13M0623001602000057063791

●WEB版…無料。ご希望の方は
ciao@ciaojournal.comまでお申し込みください。
また、お友達にご自由に転送なさってください。

●Versione Web di CIAO! Journal…GRATIS.
Se desideri ricevere la versione Web della rivista, scrivi all'indirizzo ciao@ciaojournal.com indicando: nome, cognome e l'indirizzo mail su cui vuoi ricevere la rivista. Ciao! Journal può essere condiviso liberamente con tutti!

かな私たち4人を覚えてくれ、店に入るや「やれやれまた来たぞ」とばかりにニヤニヤされたものだ。アパートのオーナーにもすっかりお世話になった。足りないものを次から次へと、文句ひとつ言わずに持ってきてくれた。はじめは不審感の塊であったことを本当に申し訳なく思う。この2週間で出会った全ての人に、日頃ミラノではあまり感じることはない温かさがあった気がする。

遅れて到着したバスから、行きのバスに乗っていた添乗員が現れた。親切な兄弟が見送ってくれる中、バスが発車するなり、すぐさま乗客と添乗員の間で喧嘩が始まった。このとき私の脳裏に浮かんだフレーズはこれだ。「フォッジャに行こう。フォッジャの人が好きだから」。



イッポカンボの海/Il mare di Ippocampo.

dove andavamo di solito, che appena vedeva entrare noi quattro coinquilini ci riconosceva e ci guardava divertita. Anche il proprietario di casa ci ha portato tutto quello che ci mancava senza dire una parola di lamentela, e mi scuso per averlo immaginato, all'inizio, completamente diverso. Tutte le persone che ho conosciuto in queste due settimane mi hanno regalato un calore che a Milano è raro trovare.

Dal pullman, arrivato in ritardo, è sceso lo stesso assistente del viaggio d'andata. Salutati i fratelli, il pullman è partito, e subito è iniziato un litigio tra una passeggera e l'assistente. In quel momento ho pensato: "Tornerò a Foggia, non per Foggia, ma per i foggiani".

Natsu Funabashi

Ciao Journal in piazza

こちらは読者の掲示板です/Questo spazio è dedicato agli annunci dei lettori:



STUDIO LINGUISTICO SOE
di Masatake Soejima

www.studiolinguisticosoe.it

ビジネス文書翻訳(伊英日)／裁判所宣誓翻訳(伊英・伊日)

Translation of Business documents between Japanese↔Italian/Japanese language lessons
イタリアの高校から外国の大学へ進学する際にイタリア語の卒業証書や成績表等の宣誓翻訳証明書が必要になります。私どもにお任せください。

【Izakaya Night】ミラノの「神楽坂茶寮」が2日間限定で居酒屋に変身！名物の「90分飲み放題」や定番フードを楽しめます。イタリア人のご友人や同僚とぜひ！

日時：9/19(土)と10/16(金)の17～22時
要予約：02-9234-5494

ホールスタッフ募集！

新規開店の寿司店(ミラノCittà studi地区のVia Lomellina)にてホールスタッフ・レジ係を募集しています。イタリア語日常会話程度、夜のシフトに入れる方、一緒に楽しく働きたい方、興味がある方は下記までお問い合わせ下さい。男女・年齢問わず。
池田: milano.ikd@gmail.com

アップライトピアノを安価で買って下さる方を探しています。ご興味のある方はご連絡下さい。
Cell.3202647651 岡林まで

ADEC ARTE presenta "POLIFONIA DI COLORE" di Tetsuro Shimizu dal 27 giugno al 28 settembre 2026, in via Edmondo De Amicis, 28 Milano
今回はショーウィンドウを用いた展示となります。新たな試みへの挑戦です。

ミラノ・グローバル・ラーニング・アカデミー(MIGLA)は、日本国籍を持つ子女のための国語補習授業校です。

・日本政府援助対象校 ・幼稚園4歳児～高校生・編入随時。見学、授業体験可
お問い合わせはmilano.gla2020@gmail.com

ミラノ補習授業校は、毎週土曜日午後3時～6時、ミラノ日本人学校の校舎を借りて国語の授業を行っています。

幼稚部(年中・年長)、小学部、中学部、高等部、継承語クラスの13クラスがあります。ご興味のある方は事務局までメールにてお問い合わせください。
milanohoshuko10@gmail.com
<https://milanohoshuko.com/>

チャオ誌面とHPに告知掲載/
Pubblica il tuo annuncio sulla versione cartacea e sul sito di Ciao:
1コマ25ユーロ(20字×5行、英数半角は2文字で1字) / una casella: 25euro (40 battute per 5 righe)

CiaoのFbやインスタ上での告知/
Annunci su Facebook e Instagram di Ciao: Ciaoの告知として2回掲載で25ユーロ(100字、英数半角は2文字で1字、写真1つ) / L'annuncio verrà pubblicato 2 volte sui social di Ciao: 25euro (200 battute, foto)

詳細とお申込み/
Per info scrivere a
ciao@ciaojournal.com

全部読んだ？

バックナンバーは公式サイトでチェック！
Puoi consultare i numeri precedenti sul nostro sito ufficiale!
<https://www.ciaojournal.com>



エバー航空でミラノから日本へ ～日出ずる国へのあなたの翼～

日本への旅、多彩な選択肢

- ✓ ミラノ～台北を毎日運航する直行便により、イタリアから日本へのアクセスが更にスムーズに！
- ✓ ミラノ→台北→日本の10都市へ。
日本各地を網羅する充実したネットワーク。

福岡、沖縄、大阪、仙台、札幌、東京行き：台北にてスムーズに乗り継ぎ。

小松、神戸、松山、青森行き：台北で1泊以上の滞在となる場合がありますが、旅の途中にもう一つの目的地を組み入れて楽しむ絶好の機会になるでしょう。

快適なボーイング787-9ドリームライナー

ミラノ⇄台北の空を飛ぶボーイング787-9型機は、調光可能な電子シェードの窓、静かな客室、そして最新の空気循環システムが快適な環境を作り出し、乗客の皆様のウェルネスをサポート。従来の航空機に比べて高めの湿度と、より地表に近い気圧に保つことで、身体へのストレスや時差ぼけの症状を軽減します。

✓ 数々の受賞歴を誇るエバー航空の快適なサービスは、最高評価の「5つ星」に格付け認定。

デザイン好きの方に嬉しいサプライズ

- ✓ 有名ブランドとコラボのアメニティキット
長距離路線のロイヤルローレルクラス（ビジネスクラス）では「メゾン キツネ」、プレミアムエコノミークラスでは「ハンター」が手がけたアメニティキットをご用意しています。

Maison Kitsuné：フランスと日本。二つのカルチャーを融合させた世界観が魅力。アイコニックなキツネのロゴで知られています。

HUNTER：伝統的なウェリントン・レインブーツを真のファッションアイコンへと進化させたイギリスの老舗ブランド。洗練されたスタイルが、アメニティキットのデザインにも息づいています。

完璧なフライトをあなたに！

ミラノから日本への旅をご計画のお客様のために、一部の運賃クラスを対象とした**お得なプロモーション**もご用意しております。

キャンペーンの利用規約はこちらからご覧いただけます。

伊：[Pianifica e prenota- Promozioni - EVA Air | Italia](#)

英：[Plan & Book- Promotions - EVA Air | Italia](#)



STAR ALLIANCE



GAM MATSURI

Factory NoLo
Viale Monza 4,
(Loreto) Milano

3-4 OTTOBRE
10:00 - 19:00

mercato di artigianato giapponese
Ingresso libero con area food & workshops

maido!
Okonomiyaki street food

OKONOMIYAKI

おいしい

JAPANESE STREET FOOD

@maido_streetfood Via Corsico 1, Milano

柴田屋のお酒、**SAGAMI**にあります！
こだわりのお酒を、ぜひお楽しみください。

SHIBATA-YA
酒
since 1935

Scopri i saké di Shibataya da **SAGAMI**.

サガミ
SAGAMI